



令和3年度とっとり学力・学習状況調査について

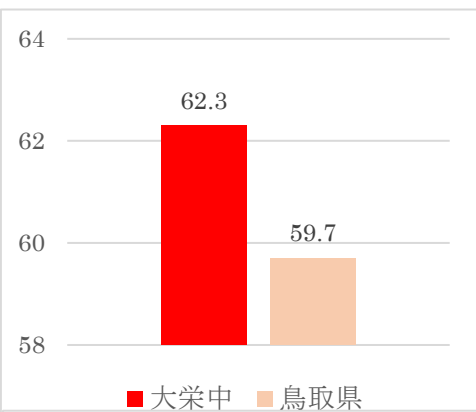
今年度からスタートした県教育委員会独自の新たな取り組みです。子どもたち一人一人の学力の伸びや学習状況を把握することにより、子どもたち一人一人の成長を支え、確実に伸ばす教育を進めるための調査です。今年度は1年生が対象（前回の「学校だより」でお伝えした全国学力・学習状況調査の対象は3年生）で、調査事項は国語、数学、質問紙調査です。令和4年度は中学校1、2年生までを対象として調査を実施する予定です。

<とっとり学力・学習状況調査の「3つの特長」>

- 特長1** 毎年の学力調査の結果を見比べることによって、1年間の学習の積み重ねを「学力の伸び」として見るすることができます。
 ※「学力の伸び」は2年目以降の調査から見るできるようになります。
- 特長2** 質問紙調査（アンケート）の結果から、ルールやマナーを守る意識や、目標に向けて粘り強くやり抜く力などがどれだけ身に付いているのかが見えるようになります。これらの力は、学力と強く関係しているといわれています。
- 特長3** 調査の結果から、学力を伸ばしている効果的な指導方法を明確にし、授業改善や生徒一人一人に応じた指導・支援をさらに充実させることができます。

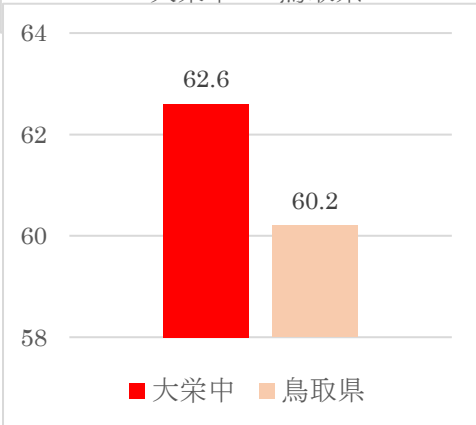
<分析、考察及び方策>

本年度より新たに調査の始まったとっとり学力調査であるが、2教科とも全県よりかなり上回っている。しかし、個々に見ると少し偏りのある生徒もある。これらの対策として、質問紙調査とリンクさせて、非認知能力、学習方略の項目を分析しながら、少し数値の気になる項目を中心に個別に支援しながら、学力の向上を目指していきたい。



【国語】

記述式の問題の正答率が、県平均をかなり下回っている。無回答はほぼないので、問題の意図が分かっておらず、見当はずれのことを答えていると考えられる。また、文脈に当てはまる言葉を答える問題の正答率も県平均を下回っている。このことから、読解力、語彙力の向上が課題として挙げられる。指導としては、教科書中に出てくる新たな語彙の意味を調べ、それを使って短作文を作る、いろはかるたや四字熟語かるたをなど利用し、語彙を獲得するものを継続したい。また、自分の意見を書いて伝える機会を増やし、第三者に自分の思いを正確に伝えるための話し方、書き方の指導も行っていく。



【数学】

分野別でみていくと、「図形」「変化と関係」の平均正答率は県と比較し、どちらもかなり上回っている。「数と計算」「データの活用」が県と同等の結果がでていることから県内でみると比較的高い学力をもっていることがわかる。細かく見ていくと、記述式の問題は、選択式や短答式よりも正答率が下がる傾向にある。知識を生かして考えたことを人に伝えたり、文章学習をしたりすることで力をつけていく必要がある。設問別でみると、分数や小数を使った問題の正答率が低く、分数の加減法・乗除法の練習が必要である。計算スキルを高めながら、説明の活動を授業で扱っていく。

<生徒質問紙の結果の概要>

「基本的な生活習慣」、「学校生活・学習姿勢」、「家での勉強のやり方」、「地域との関わり」など、74の質問項目のほぼ全領域で一定の水準に達し、ほぼ全県平均を5%から20%超えている。しかし、個々の生徒を見ると課題も見えてくる。気になる生徒に対しては個別対応が必要であり、教育相談の中で「勉強の仕方」や「学習計画の遂行」をアドバイスしながら個別支援したり、学級経営を通して学級全体を鍛えたりする中で、「班の関わり」や「学級の全体学習の中でより主体的・対話的に活動し学びが深まる学習集団となる」よう、学年会や校内研究推進委員会で方策を検討し学力向上策を打ち出していきたい。



10月学校行事予定表			9/17現在	
日	曜	校内行事	部活	給食
1	金	中部新人大会	○	×
2	土	中部新人大会 倉農高秋季オープンスクール8:45		
3	日	倉吉西高校体験代替		
4	月	駅伝下見13:30	○	○
5	火		×	○
6	水	新人大会報告会15:20 職員会15:50 人権学習会17:30	×	○
7	木		×	○
8	金	中間テスト	○	○
9	土	英語検定9:00(30名受検) 米子高専見学会 ユージュ部青山剛昌記念館へ取材8:00~10:00 県中学生新人バドミントン選手権大会(米子産業体育館)		
10	日			
11	月		○	○
12	火		○	○
13	水	1年情報モラル学習(3・4限) 中部駅伝激励会15:00 人権学習会17:30	×	○
14	木	中部駅伝	○	○
15	金	朝新聞	○	○
16	土	鳥取敬愛高オープンスクール9:00 青翔開智高入試説明会10:00		
17	日			
18	月		○	○
19	火	生き方講演会	○	○
20	水	診断テスト(3年) 人権学習会17:30	×	○
21	木		○	○
22	金		○	○
23	土	県民スポレク祭 米子高専見学会		
24	日	県民スポレク祭		
25	月		文化祭	×
26	火	集金日	祭	×
27	水	集金日 人権学習会17:30	放課後	×
28	木		練習	×
29	金	P T A 人権教育ファシリテーター 18:30		×
30	土			
31	日			

あくまで学力の特定の一部分

対象は生徒一人一人

今年度の2種類の学力・学習状況調査の結果及び分析、並びに対策等について、前回は2年ぶりに実施された「全国学力・学習状況調査」、今回は今年度から始まった「とっとり学力・学習状況調査」についてお知らせしました。

これらの調査で測定できるのはあくまで学力の特定の一部分です。また、6月の「学校だより」の標準学力検査結果の際にもお伝えしましたが、私たちは、ややもすると生徒たちを全体として捉え、平均に目を向けがちです。実施教科の結果について述べていますが、これも全体としての傾向を述べたにすぎません。その傾向を踏まえつつも、私たち教職員の対象は生徒一人ひとりです。個別の詳細な分析や助言が必要で、これから教科担任や学級担任が生徒たちの現状を見つめ、より良く伸ばすために様々なアドバイスを行っていきます。一人ひとりの良いところは伸ばし、弱点を補強する。この繰り返しが大切だと考えています。

一行にしかず

「百聞は一見にしかず」。多くの方がこの言葉を聞いたことがあると思います。意味は、実際に自分の足で現地に出向き、自分の目で見て確かめることが大切である、という意味です。

私もその通りだと思います。例えば、各学級に行き、実際にこの目で授業の様子を見ると、生徒たちの真剣な姿や楽しんで学んでいる様子がよく分かります。

この言葉には続きがあります。「百聞は一見にしかず」に続いて、

百見は一考にしかず

百考は一行にしかず

と、続きます。

聞くことよりも見ること、見ることよりも考えること、考えることよりも実行することが大切である。という言葉です。

わたしは、これをひとつながりの言葉として捉えることが良いのではないかと思います。

つまり、思い描いた成果を出すためには、よく聞いて、事実を見て、自分の頭で考えて、試してみなければ、より良い成果につながらない、ということをお伝えしている言葉だと思っています。

学校はまちがえるところ。ぜひ、「響き合い挑戦するねばりっ子」として、実行すること、実践することを恐れずに挑戦することをこれからも大切にしてほしいと思うのです。

